JAPAN LIVE YELL project　文化庁

2023 令和に拓く 石見のステージ

岩町 功 先生を偲ぶ公演―

出演団体

- 石見国くにびき18座
- 市民演劇集団 ドリームカンパニー
- 山陰久佐松竹座
- 大田市演劇サークル劇研「空」
- NPO法人 創作てんからっと
- 各劇団合同参加「朗読劇」

10:00～ 岩町功先生 功績紹介

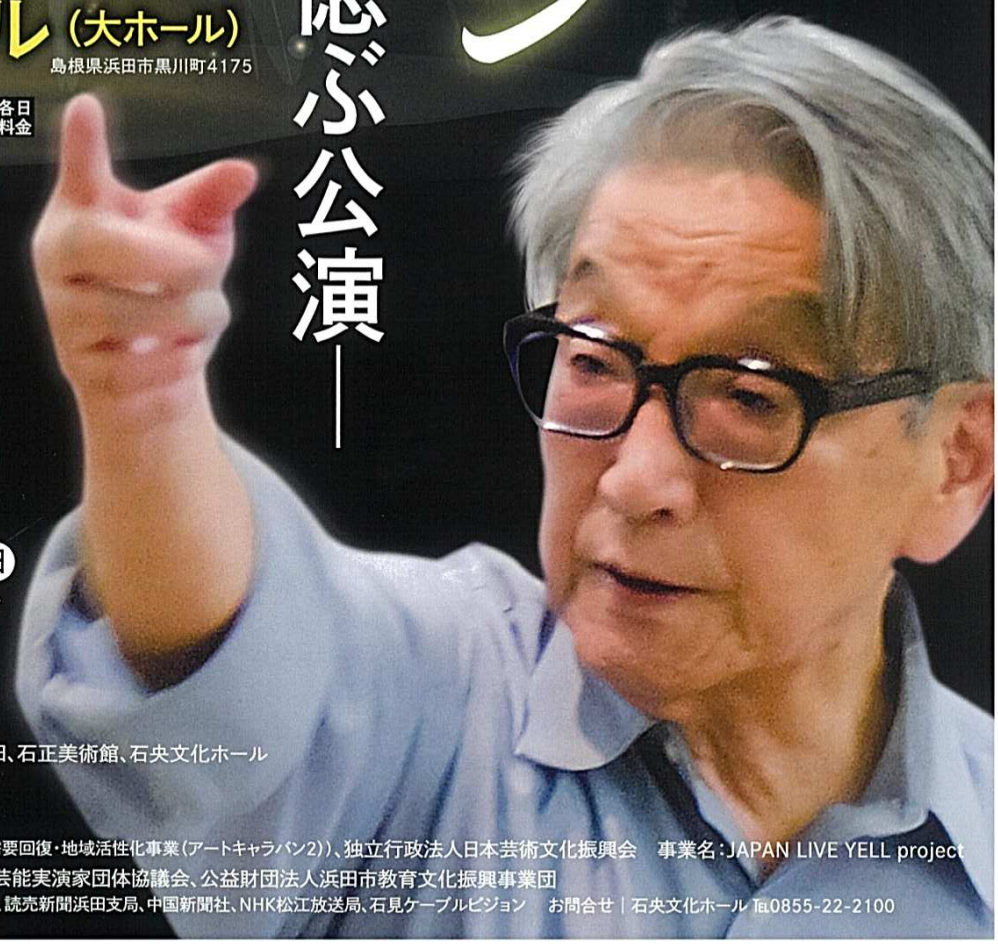
2023
12/9(土)・10(日)
石央文化ホール（大ホール）
島根県浜田市黒川町4175

❖入場料｜一般 1,000円［当日 1,500円］各日料金
高校生以下無料
追悼展入場無料

演劇 公演 他　12/9日(土)　9:30開場　10:00開演

演劇 公演 他　12/10(日)　9:30開場　10:00開演

岩町功先生 追悼展　12/9(土)・10(日)　9:30開場 17:00終了
岩町先生に関わる展示（展示ホール）



チケット発売所《発売日 10/10》

【浜田】浜田市教育委員会（文化スポーツ課）、ラ・ペアーレ浜田、石正美術館、石央文化ホール
【江津】江津市総合市民センター

助　成｜文化庁文化芸術振興費補助金（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2））、独立行政法人日本芸術文化振興会　事業名：JAPAN LIVE YELL project
主　催｜公益財団法人しまね文化振興財団、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
後　援｜浜田市、浜田市教育委員会、山陰中央新報社、毎日新聞松江支局、読売新聞浜田支局、中国新聞社、NHK松江放送局、石見ケーブルビジョン　お問合せ｜石央文化ホール TEL0855-22-2100

2023 令和に拓く石見のステージ 岩町 功 先生を偲ぶ公演

出演団体 ―あらすじ紹介―

12/9(土)・10(日)

❖各劇団合同参加 朗読劇 11:00〜

演目｜浜田藩水除新開絵図士 土井 佫助

作／岩町 功　演出／美崎 理恵

江戸時代。浜田藩の黒川村枇杷首(びわくび)(現琵琶町)に一人の親孝行者が住んでいた。土井佫助(どいかくすけ)。一人では歩けない父の面倒をみながら田畑を耕し、祭りや花見には父を背負い出かけ、その姿は藩内でも親孝行者と評判だった。

この時代の浜田藩主は松平康定(やすさだ)。孝悌(こうてい)(親孝行で兄弟の仲がよいこと)を重んじていた康定は、佫助に大きな感銘を受け、彼をお屋敷に召し抱える。正直者で真面目な佫助はやがて御手廻り組(おてまわ)(殿様の近くに仕える係)として江戸へと赴くまでとなり、そこで「測量」と「治水」について学ぶ道へと進む。それは、田畑を流し、家を呑み込み、人命を奪った、あの過去に起きた大水を、二度と起こさないため、浜田の人々、愛する人々を救うためだった。

12/9(土)

❖石見国くにびき18座 13:30〜

演目｜この手をつないで　作・演出／金田 サダ子

78年前、多くの子どもたちを、大陸で手放さなければならなかった親たち。何もわからぬまま、様々な道を歩かなければならなかった孤児たち。敵のこどもでありながら、幼い孤児たちに手を差し伸べてくれた養父母。僕は、母さんの手に引かれ、母さんの手で守られ、母さんの手で育てられた。今僕は僕の手を通して母さんの思いをつないでいきたい。

我是 日本人。我是 中国人。私は日本人。でも、私は中国人でもある。忘れてはならない、隣の国と戦争をしたことを…。忘れてはならない、その国の人たちが、敵のこどもである私たちの子どもを育ててくれたことを…。忘れてはならない、戦争の記憶を…。

どうしたら戦争がなくなるのでしょうか。一緒に考えてください。

❖市民演劇集団 ドリームカンパニー

演目｜秋の風船 14:45〜

原作／宇野 信夫　脚本・演出／大畑 喜彦

ある田舎町の古びた小さな映画館。

秋の夕暮れ時、最後の上映作品が始まろうとする時、この数日毎日のように初老の男性が、大きな荷物を抱え、映画館に飛び込む。上映作品はB級お色気映画。映画館の従業員の古沢、映写技師の健、そして飲み屋のメリーは、密かにその男性の話で盛り上がる。果たしてその男性の正体とは?

昭和の心温まる人情話です。

12/10(日)

❖山陰久佐松竹座 13:30〜

演目｜関取千両幟 (4〜5場)

脚本／清本 正澄　演出／清本 政伸

お目にかけます演題は、江戸の力士と浪花の力士、年に一度の大相撲。どっとのぼった大人気。

五反幟や十反幟、立った幟が一千本。名づけてこれが千両幟。

中でも名におう稲川部屋、四天王の横綱連。いずれも揃うて大評判。ところが世の中ままならず。今売り出しの人気者。

千田川なる留吉が、病に倒れ虫の息。夫の看病にあたる松吉は、金の工面で元の芸者に二度目の身売り。

このまま病に寄り切られるか、それとも部屋を盛り返せるか、地方の巡業、勧進元とのつばぜり合い。響く太鼓は岩国興業。

人情あやなす物語。その名も関取千両幟。さてどうなることやら、あとは見てのお楽しみ。

❖大田市演劇サークル劇研「空」

演目｜群読「長州軍侵攻と最後の代官 ―鍋田三郎右衛門」 14:45〜

作／洲浜 昌三

江戸時代の末期、幕府は第一次長州征伐で敗北すると、1866年6月第二次長州征伐を決行し、芸州口、大島口、小倉口、石州口から長州を攻めます。幕府軍は、和歌山紀州藩、福山藩、松江藩、鳥取藩の兵を送り込んで浜田城を拠点に戦いました。勝利した長州軍は幕府の天領である大森へ進軍します。さて。石見銀山最後の代官、鍋田三郎右衛門はどうしたでしょう。「逃げた」と言われていますが果たしてどうだったのでしょう。資料や記録に基づき映像も使いながら、朗読します。どうぞお楽しみください。

❖NPO法人 創作てんからっと 16:00〜

演目｜大晦日のラプソディ　作／美崎 理恵

今日は大晦日。さあ、あと数時間で新年だ!と盛り上がる中、劇作家、甲本耕作は目の前の締切と闘っている。絶対に落とすわけにはいかない。それは劇作家としての誇りを失うことになるのだ。だがそこに次々と邪魔者たちが現れる。抗いながらも締切に向かって猛進する甲本。と、一人の老人、木下達三がやって来る。これがまたわけのわからぬことを言い始めるのだが…。チェーホフの「ワーニカ」という作品を通して、世の中の矛盾を問い質したいと願う甲本に、脱稿は訪れるのか。

2017年、この作品を上演した時、岩町先生こと岩町功氏は木下達三を演じました。その勢いに引っ張られ、みんな必死で楽しく演じたという――思い出の一作です。

〈出演団体の都合により、上演時間・上演作品及び出演者が変更となる場合がございます。〉